



「読まない」はもったいない

メリットしかない朝読

朝読書は1988年に千葉県の高次教師、林公教諭と大塚笑子教諭が提唱し始まった活動です。「みんなでやる」「まいにちやる」「好きな本でよい」「ただ読むだけ」のルールで、現在では全国の小中高校で広く行われています。本校でも8時30分から10分間の朝読書の時間が設けられています。しかし、残念なことに徹底・定着していないのが現状です。

そこで数ある朝読書のメリットの中からいくつか紹介したいと思います。いいことづくしの朝読書、まずは1ページからでも始めてみませんか。きっとあなたの朝が変わりますよ！

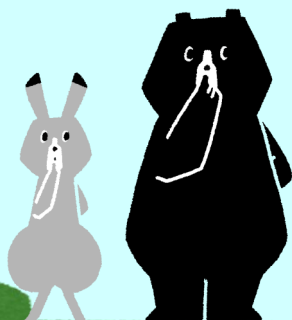
落ち着いた気持ちで学校生活がスタートできる

朝読書の時間、教室の全員が静寂の中本に集中します。10分間ですが「全員」で「集中」することが重要です。気持ちが落ち着いた状態で授業に臨めば、集中力も高まりますし、自分で集中力をオン・オフにする訓練も兼ねることができます。



語彙力を高め、知識を得ることができる

日常会話やテレビ・インターネットだけではあまり触れられない語彙を、文章として触れることにより身に付けることができます。また、ネットやSNSの流動的な「情報」ではなく、時空や人の手を経た結晶化した「知識」を得ることもできます。



効率的に情報や知識をインプット・アウトプットできる

東京大学大学院の生物科学の研究で『長期記憶と短期記憶は、いつ行うのが効果的なのか?』というマウスを用いた実験が行われました。そこから「ヒトでは、長期記憶の学習効果のピークは昼の前半(午前中)にあたる。このような長期記憶の日内リズムを利用して、より効率的よく学習効果を上げることが期待される。」という結果が出ています。

5分で読めちゃう物語

『5分後に意外な結末』

- ・①赤い悪夢
- ・②青いミステリー
- ・③白い恐怖
- ・④黒いユーモア
- ・⑤黄色い悲喜劇
- ・ex エメラルドに輝く風景
- ・ex バラ色の、トゲのある人



『5分後に恋の結末』

- ・友情と恋愛を成立させる3つのルール
- ・解けない謎と放課後の密談

『5分後に思わず涙。』

- ・世界が赤らむ、その瞬間に
- ・青い星の小さな出来事



『5分シリーズ』

- ・意味がわかると怖い話
- ・意味がわかると震える話
- ・意味がわかると慄く話



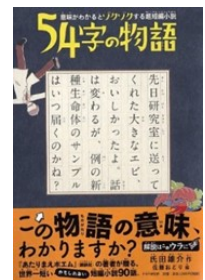
もっと短い話がいいなら・・・

『超短編小説 54字の物語』

もうちょっと長くてもいいなら・・・

『NHK国際放送が選んだ日本の名作』

- ・1日10分のごほうび
- ・1日10分のぜいたく



返し忘れはありませんか？

返却日が過ぎた本が手元にある人はいませんか？
特に3年生は1月中に必ず返却しましょう。図書委員から図書の返却督促を受けた人もいます。借りた本の紛失や汚損は必ず本人が相談に来てくださいね。「返したはずなのに言われた」という人も来てください。そのままにしていると、いつまでもあなたが借りたままになっています。自分が借りた本は一人でも多くの人に読んでもらって、読書の楽しさを分かち合いましょう！



3年生の貸出は1月27日(金)までとなります。**原則として1月31日(火)までに必ず本の返却をお願いします。**なお、二次対策などで貸出を希望する生徒は司書までご相談ください。

借りていい？

